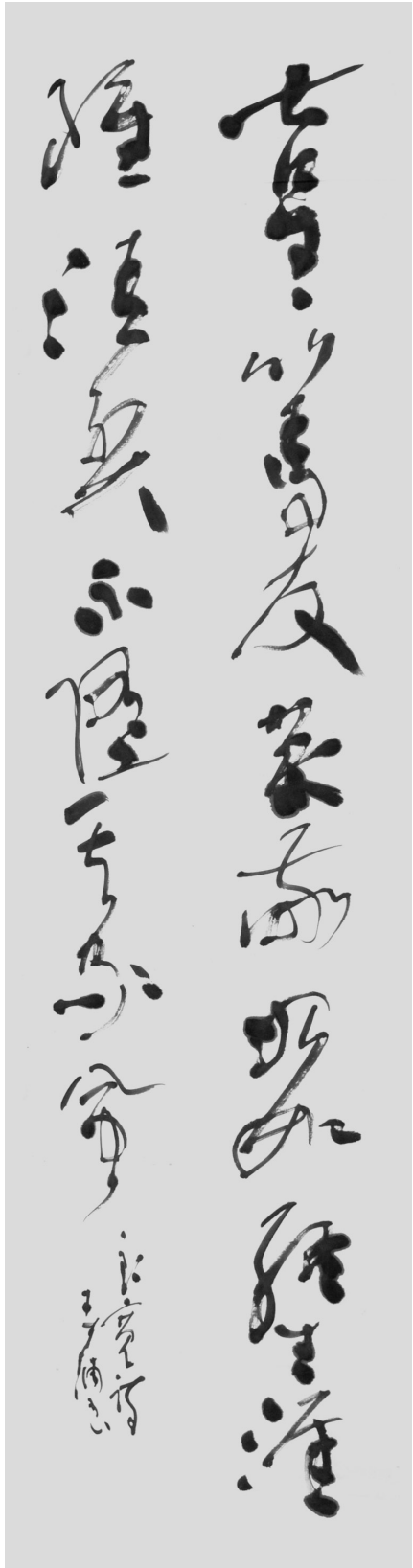


1月25日正午必着

明石春浦先生書



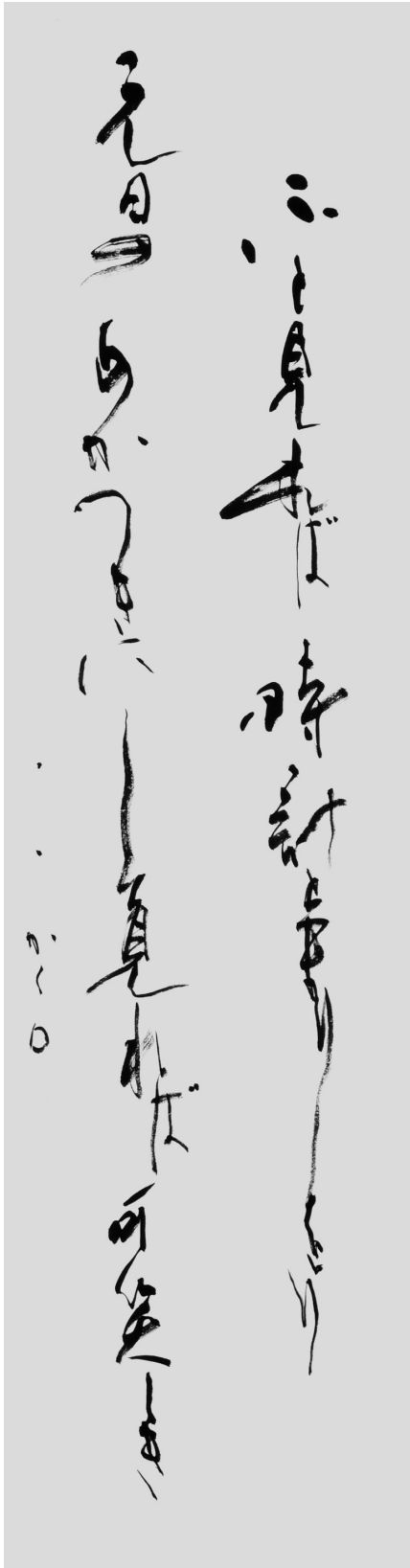
七星竹馬友
生涯雖清貧

恭敬始如終
不墮其家風

(良寛)

竹馬の友 七星さん いつも変らぬ つつましき。
貧乏ぐらしを しているが 家風にはじる しぐさなし。

明石幸子書



ふと見れば 時計とまりをり 元日のあかつきにして 見れば可笑しき (若山 牧水)

夜動霜林驚落葉
 曉聞天籟發清機

夜動霜林驚落葉 曉聞天籟發清機 (李頎)

読経の声は、夜は霜枯れの林をゆり動かして落ち葉をさわがせ、夜明けには、天が起こす音のように空に聞こえ清浄な悟りをひらかせる。

窪田華岳先生書

条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。

素雪曉凝華 (太宗)

素雪曉に華を凝す。

素は白色。夜明け方、樹には白雪が花を咲かせたよう。

一夜風霜萬木枯
 歲寒惟見老松孤

(胡居仁)

一夜の風霜に萬木枯れ、
 歲寒に惟だ見る老松の孤なるを。

一夜の風霜で木々は尽く落葉する。寒い冬にはただ老松のみが孤独に緑を保つ。

新春

(姚合)

新春

姚合

官卑長少事 縣僻又無城
 未曉衝寒起 迎春忍病行
 樹枝風掉軟 菜甲土浮輕
 最好林間鶴 今朝足喜聲

官卑くして 長に事少なく 県僻にして 又た城無し
 未だ曉げざるに 寒を衝いて起き 春を迎えて 病を忍んで行く
 樹枝 風に掉れて軟かく 菜甲 土に浮んで軽し
 最も好し 林間の鶴の 今朝 喜声足る

新しき年のはじめに 豊の年しるすとならし 雪の降れるは (万葉集・葛井 諸會)

半紙部規定課題A

1月25日正午必着

寄身 何年可

※作品には必ず落款を入れてください。

明石春浦先生書

※課題A(楷書)と課題B(四体の中より一書体選択)の二点を出品のこと。

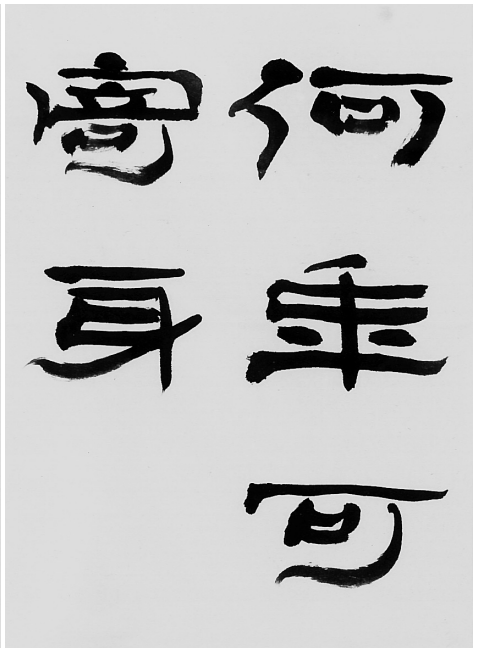
半紙部規定課題B

1月25日正午必着

行書



隸書

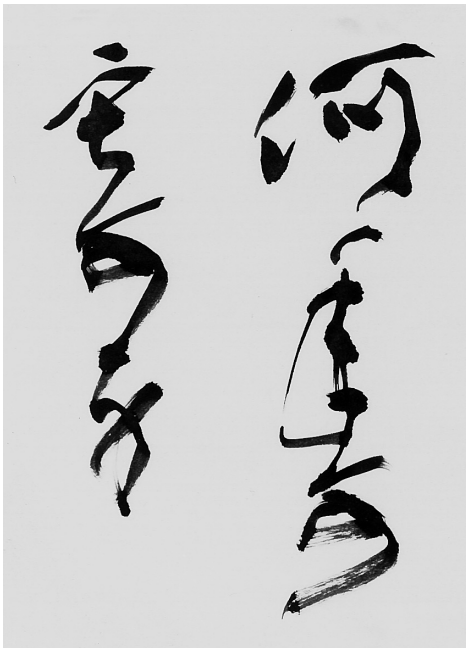


明石春浦先生書

草書



行草書



お逢いしても何のもてなしもできず、ただとも道を語り合うだけ、貧乏なことは誰でも周知のこと
帰り行く道すじに、降り残る雨は分たれて 舟をとどめ、親しき友に別れをつける
松木立の茂る山上の夜明け、霜が明るくかがやき 竹やぶの中の住居は春となり、花のしげみは暗い
私もかねがね隠遁したいとは思っているのだが いつになったら、君の住む山中に身を寄せることができるのだろう

送人歸山

石召

相逢惟道在
誰不共知貧
歸路分殘雨
停舟別故人
霜明松嶺曉
花暗竹房春
亦有棲閑意
何年可寄身

人の山に帰るを送る

石召

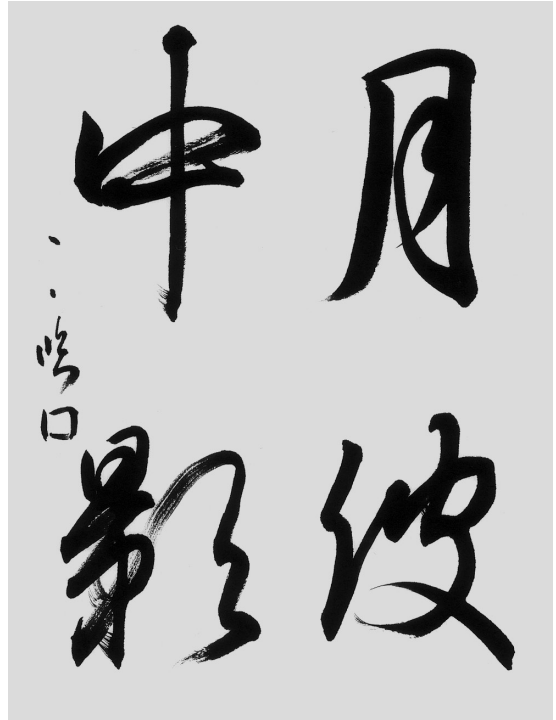
相逢うて 惟だ道のみ在り
たれとも 誰か共に貧なることを知らざらん
帰路 残雨を分かち
舟を停めて 故人に別る
霜は明らかなり 松嶺の暁
花は暗し 竹房の春
亦た棲閑の意有り
何れの年か 身を寄す可き

(出典)
朝日新聞社刊
「三体詩」下より

一自方袍振錫
行別師還媿
六塵情雖觀
秋月波中影
未遁春花夢
裏名谷靜
纔聞山鳥語

一自方袍振錫行 別師還媿六塵情 雖觀秋月波中影 未遁春花夢裏名 谷靜纔聞山鳥語
一たび方袍錫しを振りて行きし自り。師に別れて還つて六塵の情を媿ず。秋月波中の影を観ると雖も。未だ遁れず春花夢裏の名。谷靜かにして纔かに山鳥の語を聞く。

1月25日正午必着



(秋) 月波中の影を (観ると雖も)

平安 小野道風・屏風土代

小野道風は、平安時代の能書家であり三跡の一人に挙げられる。小野たかむらの孫にあたり、能書の故をもって、醍醐・朱雀・村上の三朝に歴任した。彼の筆跡は野跡といわれ、その時代の社会情勢を反映し意識的に日本風の書を書こうと努力した。

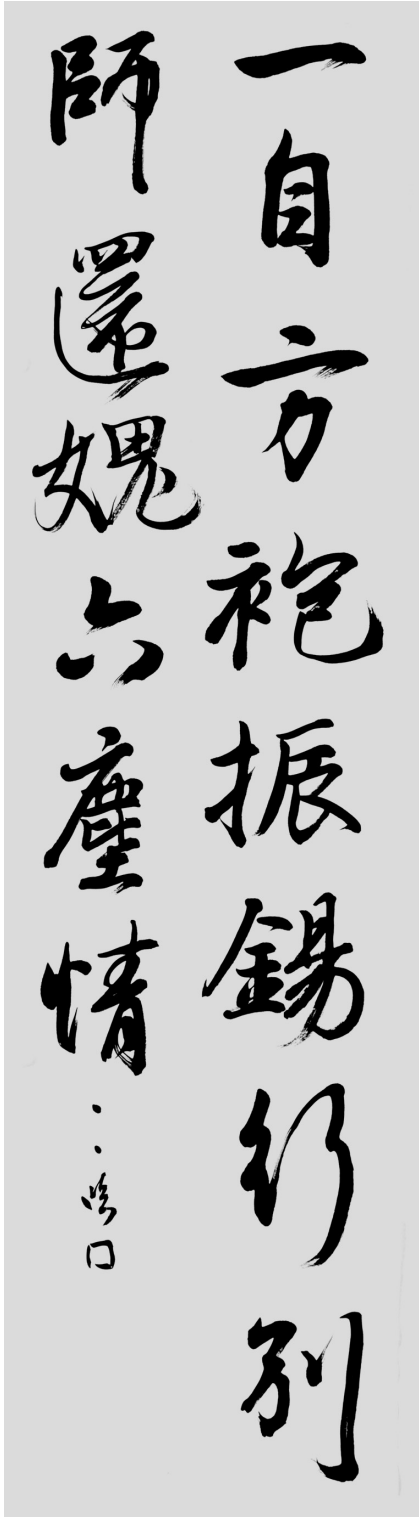
温順優雅な道風の書風は、藤原佐理・藤原行成に受け継がれ、純日本風の書として確立するに至る。

この作品は、醍醐天皇が宮廷に置く屏風の揮毫を、当時第一の能書家・小野道風に命じて作らせたものである。完成した屏風は現存しないが、その下書きである「土代」が伝えられている。本来は色紙形の用紙であったと推測されるが、現在は卷子本として仕立てられている。

大江朝綱の七言律詩・絶句が百七行にわたって書かれているが、下書きであるため所々に書き入れや修正が見られ、道風の書作における苦心・工夫の跡が感じられて面白い。

中国書道の影響を強く受けた三筆の書とは異なり、豊かで温みのある書風ではあるが、線によどみやすぎがなく、緊張していることを理解し、学ぶことが大切である。

(春廣)



一たび方袍錫しやくを振りて行きし自より。師に別れて還はつて六塵の情を媿はず。



し

せき

中学一年

雨宮春聲先生書



く

おん

中学二三年

菅井松雲先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



じん
神

ぐう
宮

小学五年

榎戸春龍先生書



こめ
米

だわら
俵

小学六年

藤井良泰先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

1月25日正午必着



ち

よ

小学三年

藤田幸春先生書



たま

みず

小学四年

細谷春誠先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



明石幸子書

ま る 小学一年・幼年



森戸春濤書

^{だい}大 ^く工 小学二年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

教育部硬筆

ペン字部

お正月のお年玉は
すべて貯金する

小学五年

元日から七日間を
松の内といたします

小学六年

山の頂上に立ったとき
すべての苦勞を忘れる

中学

お祝いに染め色の見
事なものを頂いた

一般(級位)

しろがねの雪ふる山に人かよふ細ぼそとして
路見ゆるかな(齋藤茂吉)

一般(段位)

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

	あ
お	け
め	ま
で	し
と	て
う	

幼年

さ	お
ま	し
か	ろ
で	か
て	ら
き	
た	王

小学一年

石	な
だ	が
ん	い
を	お
の	寺
ぼ	の
る	

小学二年

が	冬
や	に
っ	な
て	っ
き	て
た	寒
	波

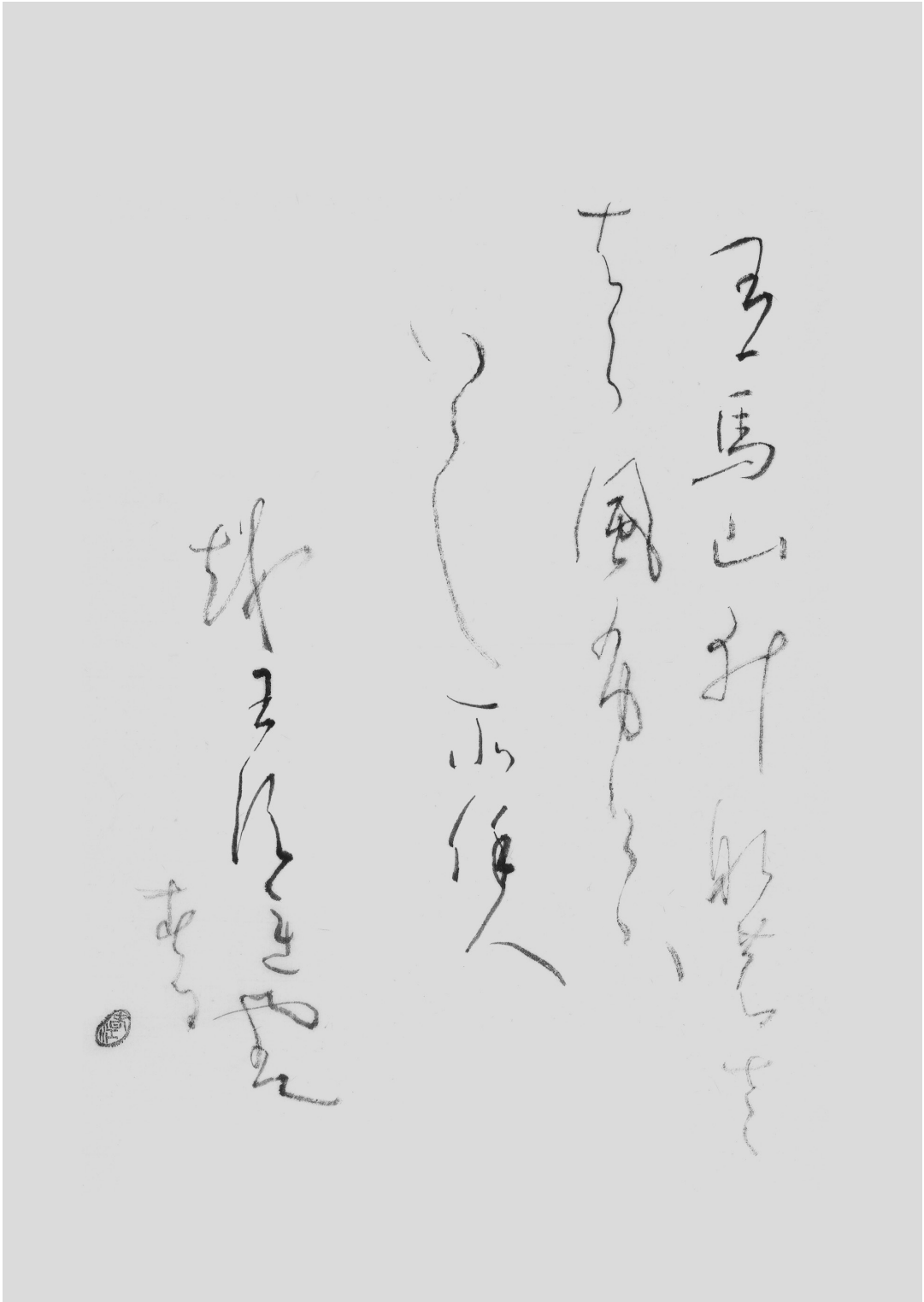
小学三年

は	正
す	月
ご	の
い	は
人	つ
の	も
波	う
だ	で

小学四年

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。



有馬山
 井那農者
 風ふけば
 いでそよ人を
 わすれやはする
 (大式三位)

岩本景楓先生書